



大仙市立豊川小学校 校長室だより

ゆめアップ 豊川っ子

平成30年度 第38号 2019.2.5

1・2年生～豆まきで「こころの中の鬼退治」～

両手いっぱい豆を持ち鬼退治に出かけた6人。退治する鬼はそれぞれ「いじわるおに」「おもったことがいえないおに」「やさいがきらいおに」「はなしをきけないおに」「はずかしがりやおに」。

数分間、「鬼は外」の元気なかけ声と共に精一杯の力で鬼めがけて豆を投げつけ、終了。

見事に退治できた？ことでしょう。



高校生助手の長澤さん 大活躍！

秋田県教育委員会の事業で「小学校への高校生助手派遣プログラム」というものがあります。これは、進学や就職先が内定した高校3年生が、出身の小学校で「高校生助手」として活動することによって、地域貢献しながら、ボランティア精神や勤労観、社会性等を養うことを目指すプログラムです。

4日（月）から15日（金）までの2週間、大曲高校3年の長澤●●さん（下八幡）が高校生助手として本校に来てくださっています。長澤さんには、日替わりで各学級に入って授業補助などの助手をしていただいており、4日は1・2年生へ。体育の時間には、女子チームに入って作戦会議の場面（右の写真）が見られました。もちろん、休み時間には子どもたちに誘われて、一緒に遊んでくれております。



5日（火）の全校朝会では、自己紹介の後に「ハンドボールのシュートに挑戦！」として、長澤さんからは、高校で磨いたゴールキーパーの腕前を披露してもらいました。子どもたちが自信をもって投げ込んだボールが止められると歓声がおこり、見事にシュートを決める子が現れるとまたどよめきが起こりました。闘志を燃やして意欲的に再挑戦している腕自慢も何人か見られました。

高校卒業後には教員を目指して秋田大学に進学することが決まっている長澤さんは、今回のプログラムを通して、大学で学びたいことをより明確にするために、教員にはどのような力が必要なのかを学びたいと考えており、自ら主体的に行動し、子どもたちや職員と積極的にコミュニケーションを図っています。そんな長澤さんの姿を見ていて、私自身も刺激をもらい、長澤さんのような明確な「志」と「行動力」をもった人材を輩出していきたいものと、改めて感じさせられた次第です。



学校評議員会のご報告

4日（月）、6月に引き続き、今年度2回目の学校評議員会を開きました。授業一巡後、児童・保護者・職員アンケートの結果（2月のPTA参観日で公表の予定）を基に、校長から経営の振り返りをさせていただきました。その後、話し合いの時間を持ち、次のようなご意見をいただきましたのでお知らせします。

- ◇学校評価の保護者アンケート回収率100%。PTA参観日の参加率もよい。
昔からではあるが、地域の学校として素晴らしいことである。
- ◇校内がきれいに整頓されているし、掲示物もきちんと整備されていてよい。
スキーウェアもきちんとかかっていた。場合によっては誰かが直してくれているなど、よい生活ができるよう、お互いに気遣っていることもあるのだろうか。
いずれ素晴らしいことである。
- ◇スキー教室のほか、学校の山でもスキー授業を行っていることはよかった。
中学や高校ではなかなか体験できなくなっている。
小学生の内にできるだけ慣れさせたいものである。
- ◇朝活の15分間（県の学習状況調査の結果を基に、個別の指導も入れて補充学習の指導を行っていることについて）がんばっていることが力になる。
中学から高校になると登校後など合間に学習する自学が必要になってくる。
- ◇グラウンドの草刈りほか、環境整備がよくされている。子どもたちには、よい環境で学んでいることが当たり前ではなく、そのことに感謝する気持ちをもたせたいものである。
- ◇円満造甚句踊りの活動は、集団行動を教えてくれるよい活動と思っている。みんなでそろえることなど、目標をもって一つのことに向かう気持ちが自然に身に付く素晴らしい活動である。
- ◇がまんネットの取組がこれからもますます重要になってくる。ゲーム機やスマホなどをルールを守って上手に使うことのできる力を付けさせたいものである。
PTA活動など、家庭の理解と協力が必要である。

参考になる貴重なご意見をいただきました。お話しいただいたことを基に、子どもたちがさらによくなっていくよう、がんばってまいります。
どうもありがとうございました。

